

「主題設定の理由」

本校の子どもたちは学習面において、今までの研究成果として「まずは自分で考えてみよう」という気持ちを持ち、式や図、文章で表現するなど主体的に取り組むことができるようになってきた。また、教師が「この考えはいいね。ぜひ発表してね」と声をかけると、自信をもって発言する姿が見られることもある。

一方で、学習課題について答えを求めることができたなら終わりという意識が見られ、なぜそう考えたのか、どうすれば自分の考えが他者に分かりやすく伝わるのか、積極的な対話を通して学習理解を深め、学習後に自分の考えや意識の変容があったかという気付きを具体的に振り返り、次時の学習へつなげていこうとする面において課題がある。「理解したこと・できるようになったことをどう活用していくか」という思考力・判断力を育成していく必要がある。

そこで、今年度も研究主題「主体的・対話的で深い学びの実現をめざして」（３年目）を継続することとし、副題を「気付き合い 深め合う学習」とした。

主題となる「主体的・対話的で深い学び」については、急速な変化の中に生きる児童にとって、受動的な学習から能動的、主体的な学習への変化を目指していくことは、これからの未来を生き抜くための重要な資質であり、時代に対応した学習の仕方であると考えている。さらに、理解したこと・できるようになったことについて、友だちとの対話、教材との対話、内なる対話などを通して考えの変容や確信に気付き、その学びをどう活用していくかを自ら考えさせる学習を積み重ねていきたい。この「学びの連続性」は、学習のみならず、よりよい地域社会を創ることに貢献したり、一人ひとりが充実した人生を送るための判断力を育成したりするなどの社会力を身に付けることへつながっていくことを期待したい。

よって、副題は「気付き合い 深め合う学習」とし、主題に迫る手立ての視点としたい。

（２）学習指導要領の内容から

育成をめざす資質・能力の明確化

「生きる力」をより具体化し、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を、ア「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）」、イ「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」、ウ「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」の三つの柱に整理するとともに、各教科等の目標や内容についても、この三つの柱に基づく再整理を図るよう提言がなされた。

小学校学習指導要領（平成２９年告示）解説 総則編 P3 より引用

現行の学習指導要領においては、未来を切り拓くための資質・能力として、上記３つの視点が掲げられている。この資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、学習の質を一層高める授業改善の取り組みを活性化していくことが必要であり、授業改善の視点として、「主体的・対話的で深い学び」の実現の推進が求められている。

（３）学校教育目標から

本校の学校教育目標は、次の通りである。

え・が・お みんなで学ぶ富水っ子

めざす子どもの姿として、具体的には「エネルギーいっぱい すこやかな子」「学習を楽しむ かしこい子」「思いやりのある あたたかい子」を挙げている。どれも個に寄り添う指導をしながら、児童のアクティ

ブな学びを促していくことが重要だと考える。これらは、インクルーシブ教育の視点に通ずるものであり、本校でも教師が共通理解し合うことで、校内研究の成果につながるよう積極的に取り入れていきたい。

併せて、I C Tの有効的な活用も行っていく。何のために学習用端末を用いていくのか、学習における必然性をもたせた上で、学習指導力の効果的な向上につなげていく必要がある。インクルーシブ教育の推進とI C Tの有効的な活用については、今年度も引き続き具体的に提案していきたい。

また、今年度の学校経営グランドデザインは、「授業を中心とした教育の質の向上」を掲げ、教師も輝く学校を取り組みの重点においている。本校は、キャリアが異なる教師が多く、一人ひとりがもつ経験や指導力、個性などを積極的に表現することが、他の教師の学びや気づきにもなると考える。自分の提案が、誰かのためになるという視点や責任感をもって取り組むことで、互いに向上心を抱いて切磋琢磨し合い、教師自身が授業を通して充実感を得て輝いていくことにつながり、児童・教科指導にプラスの影響を与えたと考える。校内研究を通して、教師が同僚、そして自分の経験のために具体的な実践を積み重ね、自信をもって児童と授業を創り上げていくことが、児童の健やかな成長につながり、本校の学校教育目標の実現を図るものであると期待している。